〈編集後記〉

経 済 危 機

関西自然保護機構（ＫＯＮＣ）の活動経済基盤は正会員会費，維持会員会費によっている。このうち維持会員の皆様からのご支援は大きく，このご支援を無くしてはＫＯＮＣがこれまでに行ってきた諸活動を語ることはできない。維持会員の皆様方への感謝を，何時も肝に銘じている。某月某日，長らくＫＯＮＣの活動を暖かく支えて下さっている維持会員の方から，組織，活動状況，維持会員などについて，電話でお問い合わせを頂いた。頼りになる長島さんがあいにく不在であったため，ブラジルから帰国直後の惚けた頭で要領を得ぬお答えをしたが，これでご支援打ち切りともなれば責任問題である。

米田健先生の巻頭言はインドネシアの経済危機の話題から始まるが，経済危機は世界を席巻している。一国の危機は世界の危機である。ＫＯＮＣの慢性化しつつある経済危機もしかりである。ＫＯＮＣの活動の特色の一つであった自然保護研究助成は，縮小化の傾向を否めない。デフレ経済を背景に，その原因は多岐にわたるであろう。会員数増加をはかることが可能ならば，それに勝る解決策は無い。このことは言うに易く行うに難い。現行の会則の背景として浮かびあがるオーソドックスな自然保護の認識パラダイムのみでは，会員数増加に関する現在の頭打ち現象を克服できないかも知れない。ＫＯＮＣ理事会では組織化に関する検討小委員会が本年度から設置され，問題克服の検討が行われている。年度末には検討を終了し，ＫＯＮＣニュースでその結果が報告されることを期待する。

会則によれば，会員は会費を納入し，会誌及び出版物の配布を受け，会の事業に参加し，総会に出席して意見を述べ，会報に投稿し，会長を始めとした役員を選任あるいは役員に選任されるとされている。これは会員の義務と権利を述べたものである。従って会報に投稿することは会員の権利であり，編集委員会としては会員諸氏が，その権利を気軽に行使されるようお願いしたい。会報はＫＯＮＣの活動と社会的貢献をはかる標識である。会報の充実化が無ければ，会員数も増加せず，経済危機もますます深刻化することは自明であり，編集委員の責任者として頭が痛い。

本号の表紙は久しぶりに植物の写真で飾られている。写真の由来は小林圭介先生の表紙の言葉をお読み頂きたい。既に述べた巻頭言は，筆者が長年打ち込んで来られたインドネシアのスマトラのフィールドから発信されている。ＫＯＮＣの話題も次第にグローバルになってきた。３原著論文の中，迫田昌宏・武田義明両先生の共著論文は，農地と一体化した人里植物の保護を論じられた力作である。この研究にはＫＯＮＣの助成も貢献している。理事長の牧岩男先生の淡水魚の論文は，特別にお願いして実現した。編集委員会では会員の皆様による執筆者のご推薦をお願いする。手紙や電話で気軽にご推薦下さい。大前義男氏・柴田耕造先生の論文は私も共著者となっているが，会報編集の自転車操業から生まれた。木村博司先生，久山喜久雄先生の２論文をセミナーの記録として掲載させて頂いたが，環境教育の実践現場から生まれた。常任執筆者とも言える村田源先生の絶滅植物レポート，四手井綱英先生の外国産樹種導入に関わる蘊蓄は，何時読んでも“ため”になります。是非お読み下さい。前号の編集後記で述べた会員の近況報告の掲載は，ブラジルへの渡航が祟ってか，果たせずに終わってしまった。次号ではぜひ実現したいと思う。また，失語症に襲われた訳でも無いのに，編集後記を書くのが遅れて印刷の足を引っ張ってしまったことを深くお詫び致します。

（山倉拓夫）